

Second Harvest Nagoya

フードバンク活動の 現状と課題

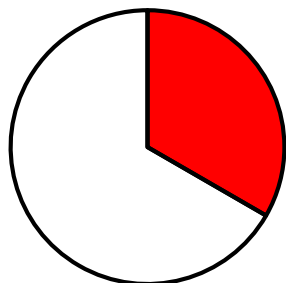
認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋
理事長 山内大輔

はじめに

■ 世界で起こっている食べ物の矛盾

食品ロス問題

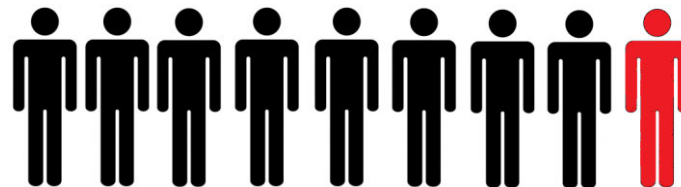
13億トン/年



世界の1/3の食品が
まだ食べられるのに
捨てられている

貧困問題

8億人



世界の9人に一人が
栄養不足

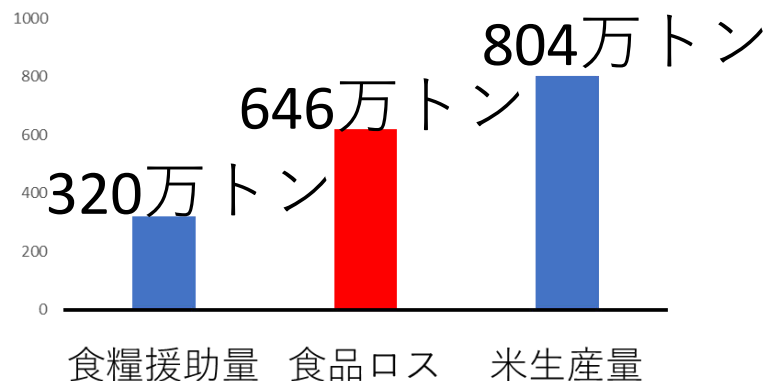
出典：国際連合食糧農業機関（FAO）2011年「Global Food Losses and Food Waste」

はじめに

■ 日本で起こっている食べ物の矛盾

食品ロス問題

年間646万トンの食品が
まだ食べられるのに捨て
られている



貧困問題

経済的な理由で食料を買え
なかった経験をもつ世帯
約15%



6人に一人

出典：農林水産省2016年「食品ロス削減に向けて」 2012年 国立社会保障・人口問題研究所

はじめに

■ 食をつなぐ活動 = フードバンク

食品ロス問題

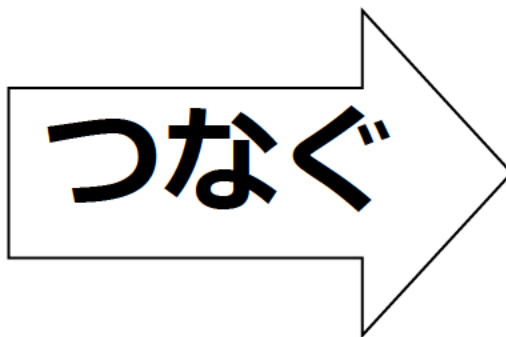


まだ食べられるのに
捨てられる食品

貧困問題



食事に困っている人



食品ロス

■日本の食品ロス 約646万トン／年

日本の食品ロス
約646万トン



国連WFPによる世界全体の
食料援助量（2012年）
約320万トン

事業系
約357万トン

家庭系
約289万トン



国民1人1日当たりの
食品ロス量
約139g



出典：農林水産省「食品ロスの削減に向けて」（2018年）

貧困

■ 2種類の貧困

種類	定義
絶対的貧困	<p>人間として最低限度の<u>衣食住がない状態</u>。 世界ではおよそ8億人（9人に1人）が該当。</p> <p>※世界銀行が1日の所得が1.9米ドルを絶対的貧困ライン</p>
相対的貧困	<p>最低限度の<u>衣食住はあるが、同じ地域で他の人が当たり前とする生活レベルを得られない状態</u>。 日本では15.6%の人（6人に1人）が該当。</p> <p>※世帯所得をもとに国民1人1人の所得を計算し、それを上から順番に並べ、真ん中の人の所得の半分（日本では2015年度122万円未満）に満たない状態が相対的貧困ライン</p>

貧困

■ 様々な年代の様々な困窮状態 具体例



<40代男性>

仕事を辞めたが、これまで非正規雇用で働いていたため貯金がない。頼る人もいない。



<70代男性>

年金が少なく息子たちと仲が悪く頼ることができない。病気だった妻の治療のため借金がある。

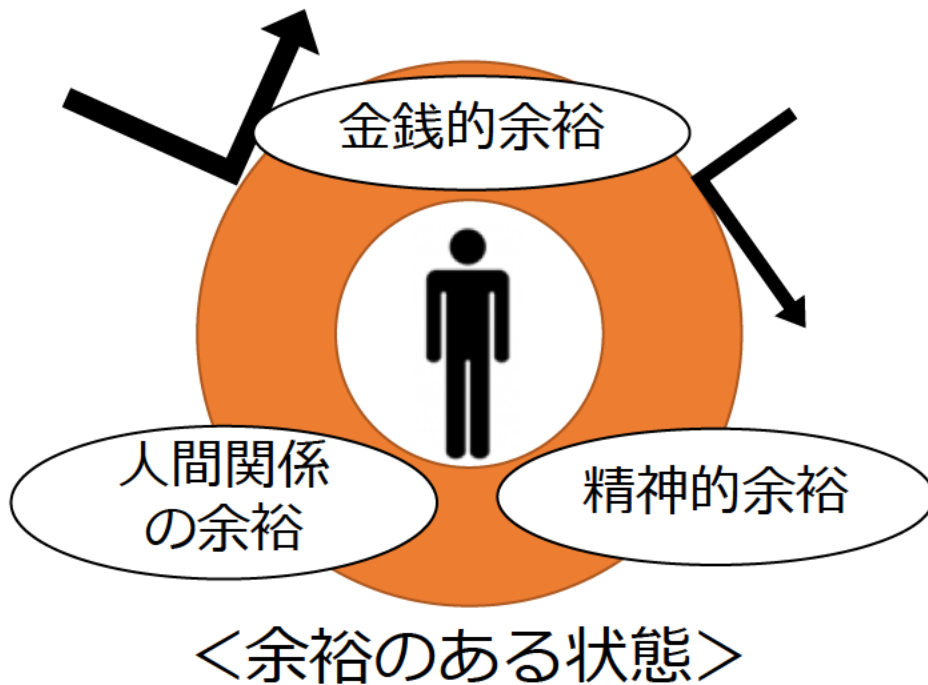


<30代女性>

夫からDVを受けて離婚。子どもがまだ小さいため働けない。両親とは絶縁状態で頼れない。

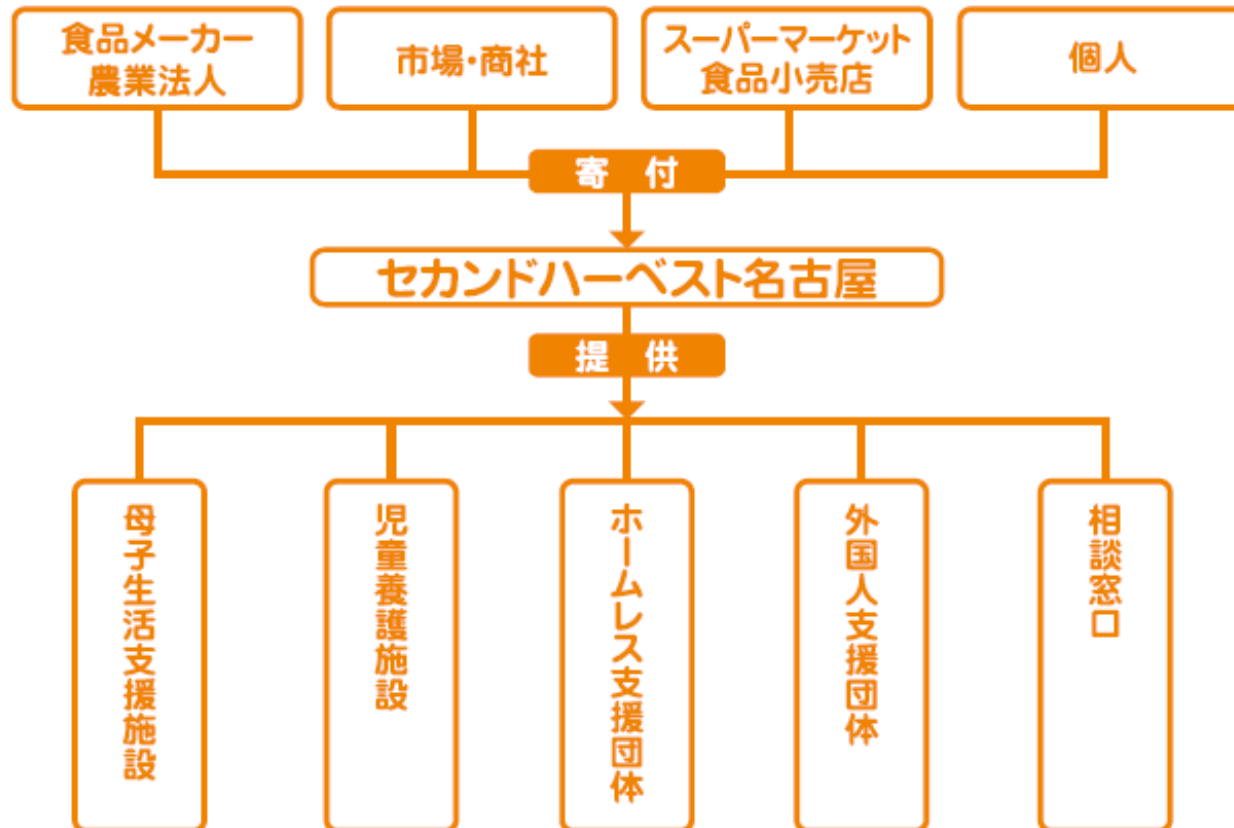
貧困

■ 様々な余裕が私たちを守る



フードバンク

■ 預かり引き出す食べ物の銀行



フードバンク

■ 1960年代にアメリカで誕生

1967年 アメリカ アリゾナ州 誕生

ジョン・バン・ヘンゲル



→国内200団体以上で実施（2006年時点）

1984年 フランス

パリ郊外でヨーロッパ発のフードバンク活動開始

→国内79団体で実施（2006年時点）

1998年 韓国

ソウル市周辺4都市にて国の福祉政策として開始

→国内437か所で実施（2015年時点）

出典：農林水産省2010年「フードバンク活動実態調査」

フードバンク

■ 日本では2000年代にアメリカから輸入

2000年 東京の山谷で炊き出し用の米を確保する会議

2002年 セカンドハーベスト・ジャパン（2HJ）
マクジルトン・チャールズ



2009年 セカンドハーベスト名古屋 設立
2HJの活動が「ガイアの夜明け」にて
特集された番組を見た有志が設立

2018年 全国で80団体以上が活動

出典：農林水産省2010年「フードバンク活動実態調査」

フードバンク

■ SDGsとは世界を良くする具体的な国際目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



セカンドハーベスト名古屋

■ ミッション、目的、存在意義、使命

フードバンク活動を通じ

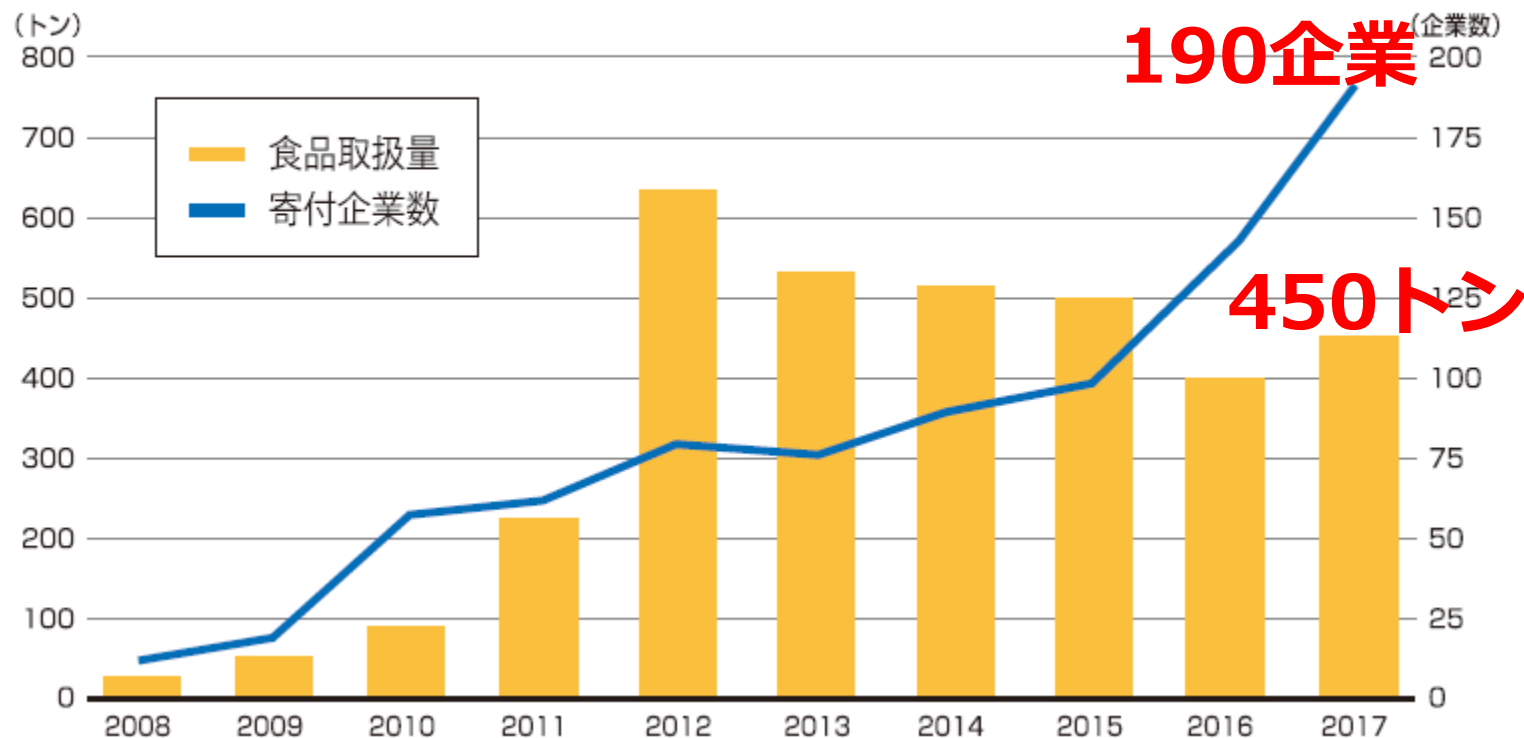
東海地方における

「食のセーフティネット」を構築する

セカンドハーベスト名古屋

■ 設立当初から20倍の規模に拡大

食品取扱量・寄付企業数の推移



セカンドハーベスト名古屋

■ 食品製造、流通、その他から食品寄付

Kasugai

コープあいち

コープきふ

コープみえ

生活協同組合連合会
東海コープ事業連合

Dole

キューピー



Campbell's

AGF

ヤマザキ

カネハツ

ISC 伊藤忠食品

yamamori
ヤマモリ株式会社

NEXCO
中日本

日本ガイシ
NGK

セカンドハーベスト名古屋

■ ボランティアが活動の中心

役割		詳細
理事長		山内大輔
事務局員		1名
<u>ボランティア</u>	ドライバー	25
	個人支援	15
	事務	5
	休日活動	5
	<u>合計</u>	<u>約50名</u>



正会員73名、賛助会員41名（2017年12月31日時点）

セカンドハーベスト名古屋

■ 提供先により活動は2種類



提供

寄付食品

団体支援

200団体10,000人

- ・ 母子生活支援施設
- ・ ホームレス支援団体
- ・ 児童養護施設
- ・ 障害者自立支援施設

個人支援

3,200世帯へ
4,600箱

- ・ 自立支援相談窓口
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 市役所

セカンドハーベスト名古屋

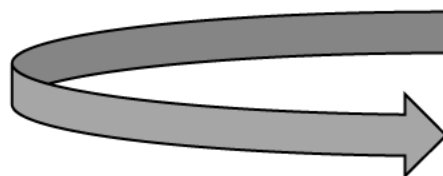
■ 団体は「引取」にて食品を提供

1. マッチング
2. 訪問
3. 覚書の締結



2HN倉庫

引取



福祉施設・団体

セカンドハーベスト名古屋

■ 食事の質の向上や食費が削減



ホームレス支援団体の炊き出しの様子

セカンドハーベスト名古屋

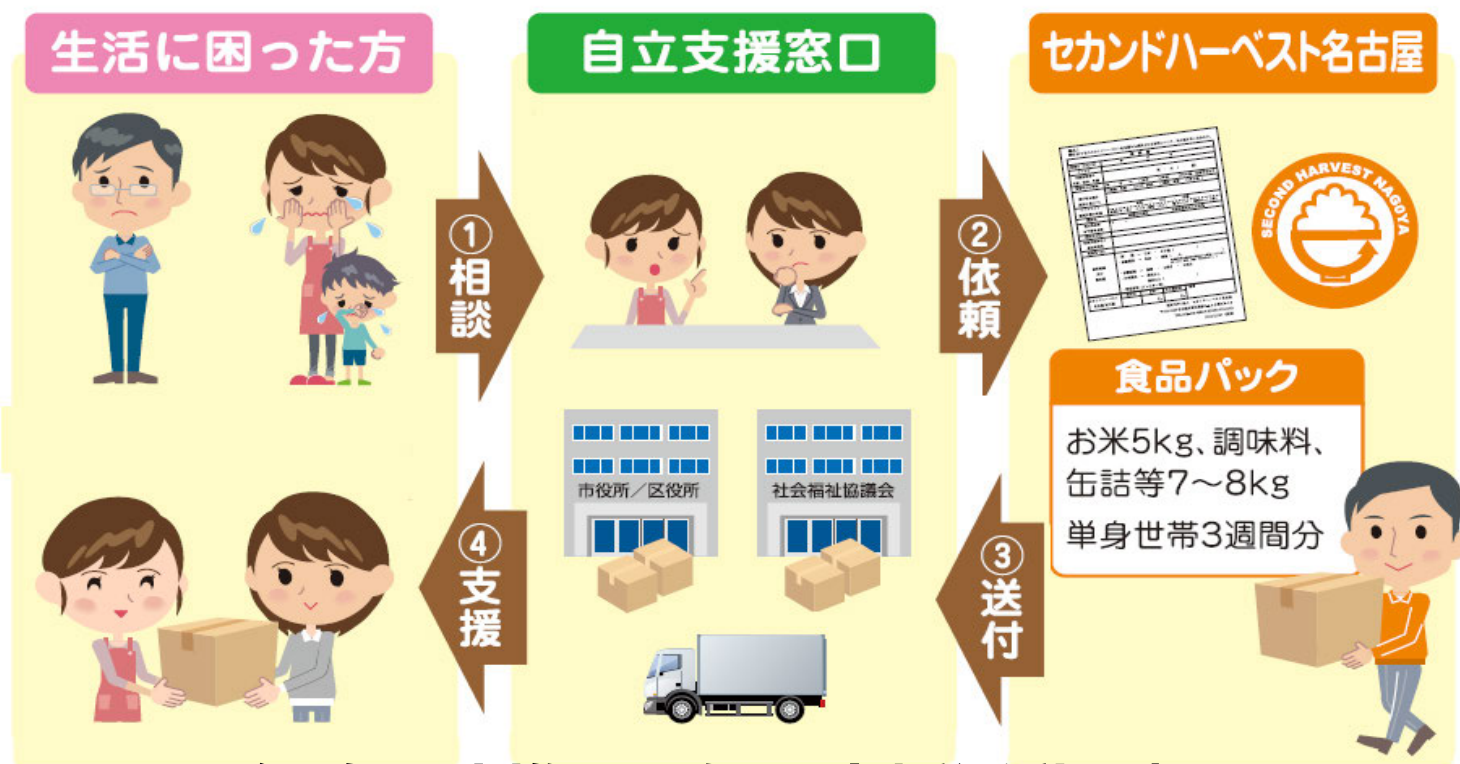
■ 食事の質の向上や食費が削減



児童養護施設での食事の様子

セカンドハーベスト名古屋

■ 相談窓口から依頼を受け食品を送付



行政と連携した個人支援活動の概要

セカンドハーベスト名古屋

■生活に困った方を食で支える

例：「命をつなぐことができた。安心して就職活動に取り組むことができた。」

2016年2月実施 相談窓口職員へのヒアリング調査より



体力の回復、心の安定、食費の削減等により
自立に向けて前向きになる

セカンドハーベスト名古屋

■ 相談支援事業が質的に向上

例：「相談員の提案や話を聞いてくれる。その結果頑なだった態度が軟化、本人の視野が広がり、本人の自発的選択を施すことができた。」

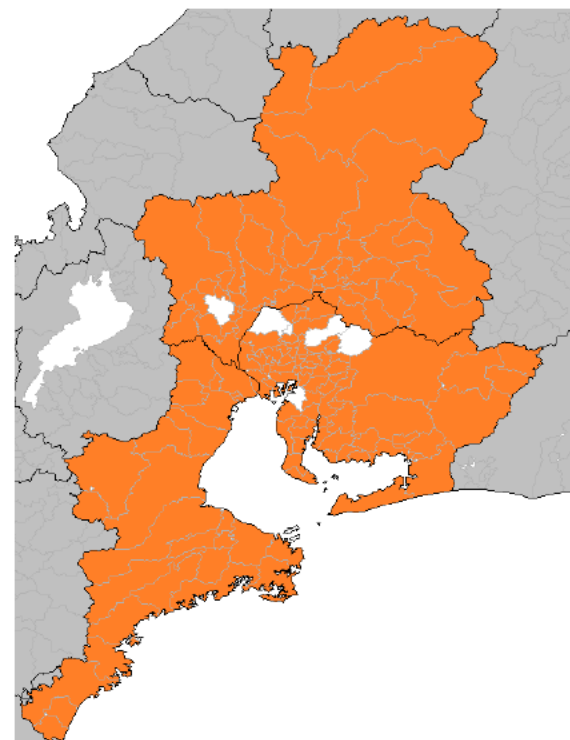
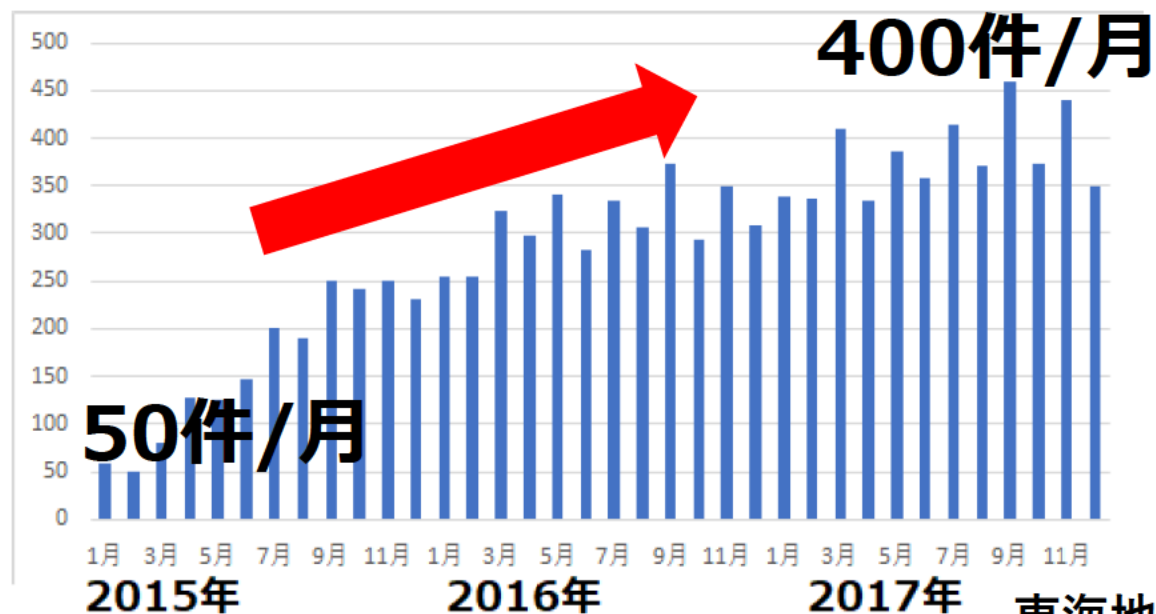
2016年2月実施 相談窓口職員へのヒアリング調査より



相談に来られた方との信頼関係の構築が容易になり、自立に向けた支援がスムーズになる

セカンドハーベスト名古屋

■ 東海地方の連携率が95%にまで増加

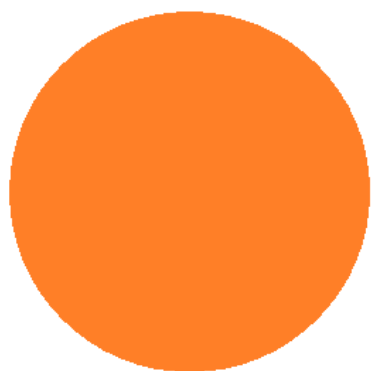


東海地方の市役所や社会福祉協議会

104団体と連携

最後に

■ 課題① 取扱量が少ない



食品ロス
646万トン

0.1%

全国のFB取扱量合計
3,800トン

最後に

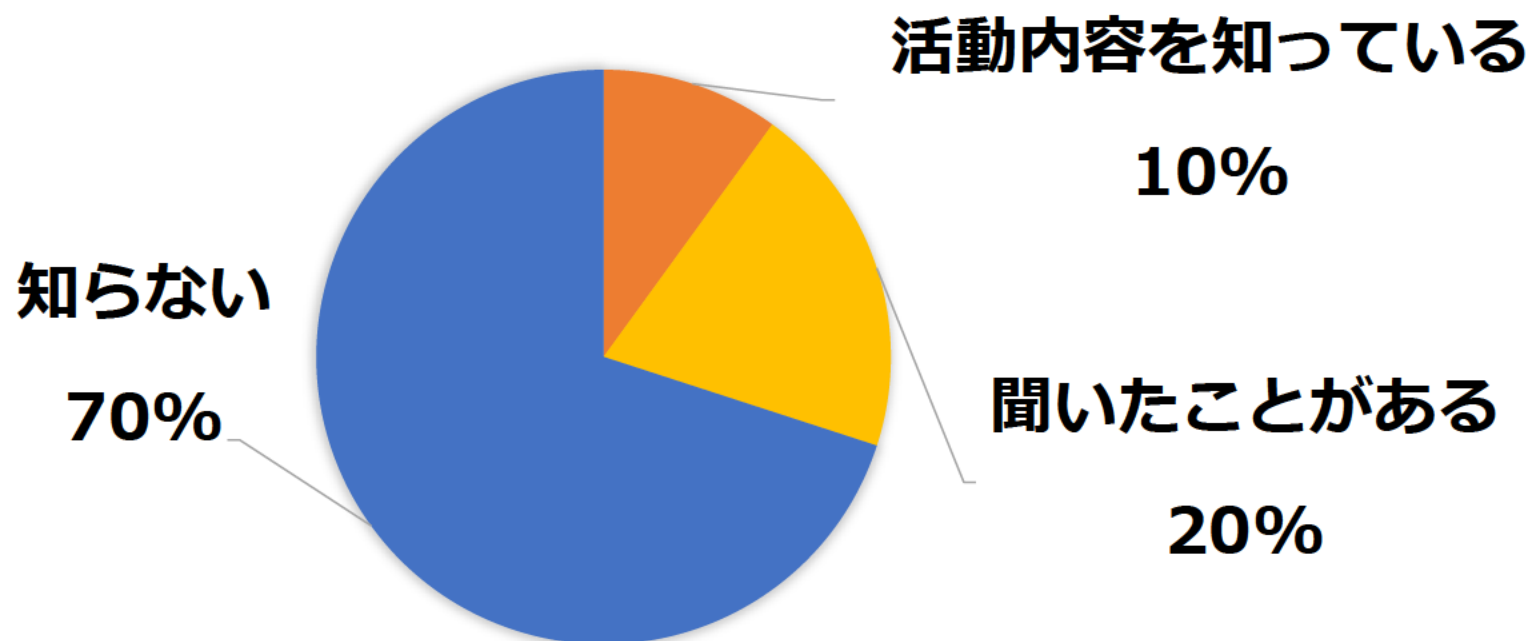
■ 課題② 運営資金の確保が難しい



最後に

■ 課題③ 知名度が低い

フードバンクの知名度



※ 2017年度ある講演でのアンケートより山内が独自作成

最後に

■参加方法① 時間の寄付（ボランティア）

<現在募集中>

①休日メンバー

毎月1回一般の方を対象とした活動紹介、体験の企画・運営

②ドライバー

企業倉庫へ法人車両で食品を引取る

例：平日の9時30分に事務所を出発して小牧の倉庫へ引取り

最後に

■参加方法② 食べ物の寄付

<寄付いただきたい食品>

賞味期限が1カ月程度残っている常温食品

お米、缶詰、レトルト食品、パスタ、うどん、蕎麦など、ギフト、お菓子、調味料、飲料

<お受けできない食品>

賞味期限が明記されていない、一カ月を切っている、切れている食品

開封されている食品

生鮮食品（肉類・魚介類・生野菜）

冷蔵・冷凍食品

アルコール（みりん、料理酒は除く）

最後に

■参加方法② フードドライブ



フードドライブ = 気軽な社会貢献

最後に

■参加方法③ お金の寄付

寄付 = 投資

1口 = 1,000円から
〈ご寄付の方法〉
現金
振込
クレジット

